

## 礼儀知らずのハゲワシ

アニマルフォトグラファー

トラベルライター

平 岩 雅 代

東アフリカにハゲワシは6種類ほどいますが、最も多く出会う機会があるのは、この写真の“ベンガルハゲワシ”です。この鳥は北はスーダのオレンジリバーにかけて、広く分布しています。

“ベンガルハゲワシ”によく似ていますが、ひと回り体が大きく、羽毛の先端が白い“マダラハゲワシ”や、頭から首にかけてがピンク色をした“ヌビアハゲワシ”、人間の耳たぶのように頬の左右に突起がある“ミミヒダハゲワシ”、体が白く、顔が黄色い“エジプトハゲワシ”など、いずれもひとくせもふたくせもありそうな面構えをしています。

ハゲワシは群れで行動し、大空を飛び回ります。そしてひとたび獲物を発見しますと、アッという間に急降下して騒々しい大宴会を始めます。

食事中のハゲワシの群れのうるさいことと云ったら、他に比べようがないほど。

“ギャーツ、ギャーツ”と薄気味悪い声を出しながら、我先にと、獲物目がけて突き進んでいきます。先客があっても、まる写真2ヌーの体が見えないほど先を争って食べる



写真1 ヌーに群らがるベンガルハゲワシ



写真2 ヌーの体が見えないほど先を争って食べる

ようが、知らん顔なのですから……。マナーも順番もまるで無視の世界です。

“屍肉漁り”を得意とするハゲワシたちですが、まずライオンやチーター、ハイエナなど

が仕留めた獲物がなければ、話になりません。

気の早いハゲワシは倒されたばかりの獲物がまだ息のあるうちから、ぐるりと回りをとり囲み、一刻も早くごちそうにありつけるのを、首を長くして待っています。肝心の狩りの主役は、たくさんの目にじっと見つめられて、せっかくのごちそうをゆっくり味わうこともできず、落ち着かない様子です。

ライオンはさすがに堂々と、気の済むまで(満腹になるまで)食べ続けますが、チーターはたくさんのハゲワシに取り囲まれてしまいますと、食事の途中でも渋々ごちそうをあきらめて、その場を逃げ出すことがあります。

ハゲワシと同じように、アフリカハゲコウも屍肉漁りの順番を待っていることがよくありますが、身長がハゲワシよりも70センチほど高いアフリカハゲコウは、自分よりも小さなハゲワシの軍団に遠慮をしてく、少し離れたところで大人しく順番を待つことが少なくありません。

ところでアフリカハゲコウは、屍肉の他にシロアリ、イナゴ、他の鳥の卵、フラミンゴなどを食べることもあります。

一般に野生の生き物は腐ったものは本能的に避け、口にしないといわれていますが、ある時、ケニアのマサイマラ国立保護区で、ベンガルハゲワシが数十羽、草原に倒れて死んでいるのを見かけたことがあります。

ハゲワシの死体のすぐ横には、一匹のヌーの死体が転がっていました。

恐らく病気で死んだヌーの肉を食べ、集団食中毒にでも当たったのでしょう。

私はこれまでに約90回のアフリカ訪問で、たびたびハゲワシの集団が繰り広げる饗宴に出会っていますが、タンザニアの巨大な火口原、ンゴロンゴロ、クレーターの中で見たハゲワシの食事風景は、忘れることができません。

ハイエナが倒したヌーを目ざとく見つけた彼らは、アッという間に3頭のハイエナを押しつけ、食べ始めました。礼儀知らずのハゲワシを恨めしそうに見ながら、ハイエナは5メートルほど離れたところに立ちつくしていました。ハゲワシは鋭いくちばしをヌーの体に突き立て、少しでも多くの肉を食べようと必死です。二重、三重に重なり合って、いちばん下になってしまったハゲワシは踏みつけられて食べるどころではありません。

それにしてもハゲワシは不気味な鳥です。

#### 〈ハゲワシひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国(ケニア、タンザニア、ウガンダなど)で話されている公用語のスワヒリ語で、空を飛ぶ鳥全般のことを“ンデゲ”という。おもしろいことに飛行機も“ンデゲ”と呼んでいる。

▶ハゲワシのなかでも最も多いベンガルハゲワシの大きさは、およそ80センチ。オス、メスともに外見はよく似ている。幼鳥は成鳥よりも一段と濃い茶褐色をしている。